



# さざんか

かとう学園 宗像市立河東中学校  
学校通信第23号(R5. 9. 11)

先週は行事の多い週でした。7年生の宿泊体験学習、8年生の RTM、9年生の進路講演会、そして全校で防災学習。行事の中で、日頃の学校生活では学べないことがたくさん学べたのではないのでしょうか。

## 7年生の宿泊体験学習



7年生は、7日と8日一泊二日で、長崎でペロン体験やほんなもん体験学習を行いました。

## 8年生のRTM



8年生は母校の小学校で、小学生の授業のサポートや奉仕活動を行いました。

## 9年生の進路講演会



9年生は、九州高校の尾関先生から「高校入学前に身に付けてほしいこと」の講演を聞きました。

## 全校生徒による防災学習



M7.3、震度 6 強を想定した避難訓練を行いました。整然とグラウンドへ避難する生徒たち。

## 授業研修の風景

先週から2学期の授業研修が始まりました。今年の河東中の授業研修のポイントは、対話活動と振り返りのあり方の工夫に置いています。また、各先生方の得意としている ICT 技術や板書法・問いの立て方など授業を公開することで技法の共有を行っています。

## 井料先生(理科)

7年2組で行われた井料先生による公開授業。理科の醍醐味は何と言っても「実験」でしょう。安全配慮を施した井料先生の水素の爆発実験は、生徒の歓声を呼び、ワクワク・ドキドキの化学の面白さへいざなうものでした。

質の高い授業は、優れた「問い」があるものです。それを実証してくれたのが今回の公開授業です。「飛行船や気球には、昔は水素が使われていたが今はヘリウムにしているのはなぜか？実験によって証明しよう!」というものです。水上置換法で水素を試験官に集め、マッチで小爆発させる実験をグループごとに行いました。



## 「避難所で一番戦力になったのは中学生だ」 ～ 東日本大震災で被災した郡山中の岩淵教頭先生より ～

宗像市では、毎年9月の第2土曜日に「宗像市総合防災訓練」を実施しています。

今年は、先週の土曜日9月9日でした。本校でも、この日を土曜授業日に位置づけ、全校で防災訓練・防災学習を行いました。

私にとっては、教師生活最後の防災訓練になりますので、河東中生と教職員のみなさんに「防災」について一つのことを伝えておきたいと思います。

2011年3月11日、午後、その日は午前中に卒業式を終え一息ついていました。誰からともなく職員室が騒がしくなり、テレビがつけられると、みな自分の目を疑いました。画面には、東北各地の津波が映し出されていました。それは、映画やテレビドラマと錯覚するような見たこともない怒涛渦巻く波でした。海から内陸に押し寄せる黒い波、ビルの屋上に逃げ惑う人たち、水に流される家や古木……。とうてい現実のものとは思われませんでした。

私には東北の仙台市に友人がいました。当時、仙台市の中学校で教頭をしていた岩淵先生です。

その年の夏休み、私は当時福岡東中の教頭で、友人の山口市の教頭と滋賀県の教頭の3人で岩淵教頭先生を励ましに行こうということになりました。

岩淵先生の案内で仙台市を中心に東北の震災の爪痕を見て回りました。震災からまだ半年もたっていなかったのに、目を覆いたくなるような生々しい被害の様子を目にしました。見渡す限り一面何もなくなっているところ。しかし、地面をよく見ると、基礎工事のコンクリートが残っているのでここには家が立ち並んでいた住宅街であることがわかります。すべて波にさらわれていたのです。ある場所には、ビルの3～4階の高さほど、廃車になった自動車が積み重なっていました。今まで安全な場所と教えていたガソリンスタンドの鉄柱がぐにやりと折れ曲がっていました。波の強さを物語る光景でした。一番ショックだったのは、地震と津波で廃校になった学校の中を見た時でした。子どもを守る責任と難しさを痛感しました。



岩淵先生から被災地を案内してもらいながら、彼の実体験からたくさんのことを教えてもらいました。岩淵先生の勤めていた仙台市立郡山中学校は小高いところにあつたので津波は免れましたが、地震の被害は受けました。この中学校自体が避難所になったので、彼は10日間家に帰らずに避難所運営に奔走しました。

さて、岩淵教頭先生から教えてもらったことで特に印象深かつたのは、「避難所で一番戦力になったのは中学生だ」ということです。震災があつたのは、金曜の午後。平日の日中は、多くの大人は働くために都市部に出かけています。大学生や高校生も遠くの学校へ行っています。つまり、町に残っているのは、お年寄りや子どもたちばかりです。その状況で、最も戦力となり役に立つたのは中学生だつたそうです。中学生は、自分の安全を確保した後、もちろん家族のことや親せきの安否が不安でなりません。その不安の中で、自分の気持ちを落ち着かせながら、懸命に避難所設営と運営に頑張つたそうです。小さい子の面倒をみたり、お年寄りに寄り添ったり。少しずつ届いてくる食料の配給を手伝ったり、体育館で段ボールを使って寝床をつくったり、トイレを確保したり。それまで子どもにしか見えなかつた中学生が、避難所では最も活躍した大人に見えたそうです。それが岩淵先生の言う「避難所で一番戦力となつたのは中学生だ」という言葉になったのです。

河東中生のみなさん。災害等何もないに越したことはありません。しかし、もし何かそんなことに遭遇することがあつたら、一番大切なことは「自分で自分の身をなにがなんでも守り抜くこと」です。そして、自分の身の安全が十分に確保できたと確信が持てたら、郡山中の生徒のように、小さい子やお年寄りのために何かできることはないかと考えてください。いざという時、河東保育園や河東小・河東西小の子どもたちや地域の高齢者を守れるのは君たちだから。